

野村万作

野村萬斎

野村裕基

三藤なつ葉 深田博治 高野和憲

おっの顔

SIX FACES:
KYOGEN, A LIFE ON STAGE

ナレーション：オダギリジョー

監督：脚本：大童一心

題字：アニメーション：山村浩二

音楽：上野耕路

監修：野村万作 野村萬斎

製作：万作の会 企画・制作：野村萬子

小俣美登里 清水薫 小山田智美

プロデューサー：丸山靖博 林孝彦

撮影：葛井孝洋 照明：足田ヨシタケ 編集：辻田恵美

サウンドデザイン：志満順一 音響効果：勝亦さくら

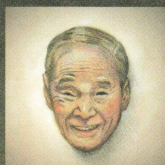
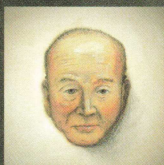
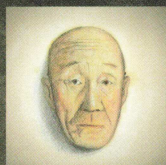
制作プロダクション：ROBOT 配給：カルチュア・エンタテインメント

狂言の道を歩んで、九十年――

人間国宝・野村万作が人生をかけて到達した芸の境地

夫婦愛を描く珠玉の狂言「川上」を
舞台裏とともに贅沢に収めた至高の80分

94歳にして現役。人間国宝・野村万作の芸境に迫る至高のドキュメンタリー 狂言を生きる万作の過去に浮かびあがる「六つの顔」



監督

出演・監修

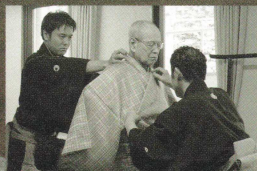
アニメーション『頭山』

ナレーション

犬童一心 × **野村万作・野村萬斎** × **山村浩二** × **オダギリジョー**

監督は『ジョゼと虎と魚たち』『のぼうの城』などを手掛け、田中浪を追ったドキュメンタリー『名付けようのない踊り』でも高い評価を受ける犬童一心。また、万作が過去を振り返るなかで心に浮かぶ「六つの顔」を『頭山』で米アカデミー賞にノミネートされた山村浩二がアニメーションで表現。ナレーションを俳優のオダギリジョーが務めるなど日本映画界を代表する製作陣が集結。監修は野村万作、野村萬斎が手掛けた。モノクロームで映し出される「現在」に、アニメーションで紡がれる「過去」、そしてカラーで立ち現れる狂言「川上」の研ぎ澄まされた美しさ。豊かな映像表現で織りなす、至高のドキュメンタリー映画が誕生した。

六五〇年以上にわたり、生きとし生ける者の喜怒哀楽を表現し、人々の心を魅了し続けてきた「狂言」。その第一人者であり、九十四歳の今もなお現役で舞台に立ち続ける人間国宝の狂言師・野村万作は、二〇二三年に文化勲章を受章した。映画『六つの顔』では、受章記念公演が行われた特別な一日に寄り添いながら、万作の歩んできた軌跡と現在の姿を浮かびあがらせる。また、ライフワークとして取り組み、磨き上げてきた夫婦愛を描く珠玉の狂言「川上」を物語の舞台である奈良・川上村の荘厳な原風景とあわせて贅沢に収録。万作が長年追求してきた世界観をその至芸とともにスクリーンに刻む。さらには、九十年を超える芸歴のなかで先達たちから受け取り繋いできた想いや、今なお高みを目指して芸を追求し続ける万作の言葉を収めたインタビューも交え、息子・野村萬斎や孫・野村裕基をはじめとする次世代の狂言師と共に舞台上立つ模様を臨場感溢れる映像で映し出す。



狂言『川上』とは

盲目の男が、願いを叶えてくれるという「川上」の地蔵に参詣し、その甲斐あって視力を得る。しかし、男の夢に現れた地蔵は視力と引き換えに「妻と離別せよ」という過酷なお告げを残していたのだった。視力が、尽してくれた妻が——、男は究極の選択を迫られる。和泉流のみに伝承されるこの演目は、笑いを本旨とする狂言においてはシリアスな異色作。夫婦愛と宿命を深く問う物語は、現代に通じるテーマをはらむ。

SIX FACES:
KYOGEN, A LIFE ON STAGE



公式サイト
© 2025 万作の会

8.22 (FRI) ROADSHOW

ムビチケ前売券(オンライン)¥1,600(税込) 販売中!

銀座4丁目交差点 和光ウラ通り
全席指定・入替制

シネスイッチ銀座

www.cineswitch.com
03-3561-0707

新宿駅東口 伊勢丹メンズ館B1F

「テアトルシネマグループ」

テアトル新宿

ttcg.jp 03-3352-1846

JR恵比寿駅東口徒歩8分
恵比寿ガーデンプレイス内

YEBISU GARDEN CINEMA

www.unitedcinemas.jp/ycg/
0570-783-715